

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26590191

研究課題名(和文) 専門職教育者のIPE(異業種連携教育)基盤型研修プログラムの実践開発研究

研究課題名(英文) The Development of Research/Education Methodology in Continuing Education of Woman Clinical Professionals; construction and application of Career History Method

研究代表者

渡邊 洋子(WATANABE, Yoko)

京都大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：70222411

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：近年、InterProfessional Education が専門職の養成・研修に導入されてきた。多職種連携の円滑な業務遂行を目指す「IPW直結型IPE」に対し、本研究では「交流型IPE」に注目した。同IPEでは、業務と直接関係のない時間と場所で、専門職者/専門職教育者が個人として異なる業種・職種とノンフォーマル・インフォーマルに交流し、自他の専門職(性)やその実践的課題について学び合う。海上保安官・薬剤師・保育士教育者、医学教育・企業教育担当で組織されたIPEチームは、ワークショップの企画・運営と省察から、研究論文3、研究ノート4、実践報告・コラム各1、学会報告2を生み出した。

研究成果の概要(英文)：In late years, InterProfessional Education has been introduced into the pre/in-service training of the professionals. Instead of defused "IPW directed IPE", aiming at effective accomplishment of the daily work with many other types of occupations, we paid special attention to "Interchange type IPE". Our research team, consisted of IPE members, such as marine peace officer, pharmacist, childcare school teacher, medical education, the company education, worked on the development of the IPE workshop program, delivered it to the people of the IPE coordination, worked on the reflective sessions, and brought about 3 thesis, 4 essays, 1 practice report, 1 column and oral presentation at the academic societies.

研究分野：生涯教育学

キーワード：専門職教育 IPE(多職種連携) 異業種理解 研修機会 ワークショップ

1. 研究開始当初の背景

近年、専門職領域の高度化・専門分化が進めば進むほど、専門職世界の特殊性・排他性は強化され、各々の専門職領域の垣根は高くなっている。他方、専門職者が日々直面する課題はますます複雑化・難化し、専門職同士が連携・協力し合いながら対応すべき事態が増加してきた。これらに伴って登場したのが、IPE (InterProfessional Education) である。医療分野を先駆けに、専門職養成の正規カリキュラムに IPW (Work) 直結型の IPE が導入され、専門職教育者の教育実践において重要な意味を持つようになってきた。

多職種連携の業務の円滑な遂行を目指すこのような「IPW 直結型 IPE」に対し、本研究で注目するのは、むしろ企業教育などで行われる異業種交流に近い「交流型 IPE」である（渡邊、2014）。この IPE は、業務の遂行とは直接に関係のない時間と場所において、専門職者／専門職教育者が個人として、異なる業種・職種とのインフォーマルな交流の中で自他の専門職（性）やその実践的課題について学び合う IPE を指す。

2. 研究の目的

本研究は、新人育成などの課題を共有する専門職教育者のための研修プログラムを、このような交流型 IPE のあり方や強みを基盤に、IPE メンバーが自ら実践・開発することを目指して着手された。なお、代表者はこの時点で、初対面の参加者同士の「交流による学び」を短時間で最大化するための「しかけ」という意味で「プログラム」を用いている。

3. 研究の方法

本研究では、上記の目的を、代表者が主宰する関西 IPE 研究会の活動展開の中で達成するものとした。同研究会は、海上保安官・薬剤師・保育士養成の教育者、医学教育・企業教育に携わった経験者により組織され、3 年間にわたり IPE チームとして共同探究に取り組んだ。2 年目のワークショップの企画・運営を契

機に、チームの活動は、本格的な実践開発研究の段階に移行した。ワークショップの企画・運営プロセスに携わった自らと研究会メンバー相互の認識・意識の変容を共同で振り返り、分析する、いわば自己・相互省察に携わると同時に、そこからプログラム開発へのフレームワークと実践的示唆を抽出する作業に取り組んだ。

4. 研究成果

「プログラム開発」の作業の中で、研究会メンバーにおいては、「果たして目指すべきはプログラム開発なのか」との問いの発見、「企画者が一番学ぶ」という気づきの獲得など、認識の深まりが見られた。当初の「挑戦的萌芽」研究としての構想を、いい意味で「裏切り」乗り超える成果が得られたことを、報告したい。紙媒体として刊行した報告書（全 91 頁）の大半は、本研究会の取り組みのプロセスを丁寧に跡づけ、その成果を実践的・研究的に振り返る内容で構成されている。

代表者自身が交流型 IPE を通して得た示唆は、以下のようなものである。今後、このような交流型 IPE を身近なところで気軽に展開できるには、ウェブサイトを活用した次のようなしくみを構築することが必要と考える。まず、横断的な複数領域において IPE 活動に少しでも関心のある希望者がアクセスできる IPE データベースを用意し、そこに希望者個人が、活動意思の程度、および希望する活動形態や場所、頻度、規模などを登録する。それを統括する主宰側は一定の人数を確保した段階で、提出されたデータをもとにマッチングを行い、いくつかの IPE 活動のメニューとリソースを対象者に提供する。さらに、各々の IPE グループが発足し、意見交換しつつ独自の活動を選択しながら軌道に乗るまで、主宰側が必要な支援を行っていく、というものである。

実は、すでに先行例がある。前萌芽研究の段階では、シンプルなマッチングやきっか

けづくり、支援的な働きかけを通して、東京 IPE 研究会が発足し、紆余曲折を経ながら活動を続けている。科研助成期間の終了後の関西 IPE 研究会も、交流型 IPE のあり方を実践研究する強力な研究グループとして、ますます活動を展開している。これらの事例を導きの糸に、閉鎖空間に陥りがちな専門職者・専門職教育者の地平が広がり、専門職交流の新たな世界が模索されることを、心より祈念している。

交流型 IPE の実践的展開にあたって乗り越えるべき課題はまだ山積しているが、交流型 IPE のチャレンジは第一歩を踏み出したばかりである。関西 IPE 研究会やそこで生み出された IPE ネットワークの活動を通して、さらなる一歩を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

①渡邊洋子・奥蘭淳二・角山香織・佐伯知子・種村文孝「IPE 基盤型専門職教育プログラムの開発プロセスと課題」『京大大学生涯教育フィールド研究』Vol. 5、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2017. 3、21-29 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/218774>

②佐伯知子・奥蘭淳二・角山香織・種村文孝・渡邊洋子「交流型 IPE(InterProfessional Education)」のプログラム開発経験による学び ―会議録のテキスト分析より―」『京大大学生涯教育フィールド研究』Vol. 5、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2017. 3、31-40 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/218773>

③角山香織・奥蘭淳二・佐伯知子・種村文孝・渡邊洋子「交流型 IPE

(InterProfessional Education)」プログラム開発過程において

チャット会議の果たした役割」『京大大学生涯教育フィールド研究』Vol. 5、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2017. 3、41 - 50 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/218772>

④種村文孝「[実践報告] InterProfessional (多職種連携・異業種交流) からプロフェッショナルリズムを考える - 木に関わる専門職の協業を手がかりに -」『京大大学生涯教育フィールド研究』Vol. 4、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2016. 3、79 - 83 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/209015>

⑤佐伯知子「[研究ノート] 保育士および保育士養成をめぐる現状と課題」『京大大学生涯教育フィールド研究』Vol. 3、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2015. 3、55-61 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/196185>

⑥角山香織「[研究ノート] 京都大学薬学部6年制教育における多職種連携教育の取り組み」『京大大学生涯教育フィールド研究』Vol. 3、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2015. 3、63-74 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/196184>

⑦奥蘭淳二「[研究ノート] 海上保安大学校における IPE 実践」『京大大学生涯教育フィールド研究』Vol. 3、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2015. 3、75-81 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/196183>

⑧種村文孝「[研究ノート] 法律専門職と市民にとっての裁判員制度―導入時の議論とその後の影響―」『京大大学生涯教育フィール

ド研究』Vol. 3、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2015. 3、83-88 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/196182>

⑨渡邊洋子「[[コラム] 教育学的観点からみた IPE の意義と可能性の検討に向けて」『京都大学生涯教育フィールド研究』Vol. 3、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座、2015. 3、89-90 頁。

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/196186>

〔学会発表〕（計 4 件）

① 奥蘭淳二「シーマンシップと海上保安—PROFESSIONALISM を手掛かりに—」（シーマンシップ研究会平成 28 年度秋季研究会、2016 年 10 月 28 日）

② Yoko WATANABE “Implications and Learning from the development process of IPE (InterProfessional Education)-based professional training/education program and its practice.” (ICER2016, Session 16, Creative Ways of Learning, Seoul National University, October 13, 2016)

③ラウンドテーブル「InterProfessional Education の可能性と課題」（コーディネーター：渡邊洋子・種村文孝、報告者：奥蘭淳二・佐伯知子、企画協力：角山香織）、日本社会教育学会研究大会、2016 年 9 月 28 日、弘前大学。

〔図書〕（計 1 件）

①『研究成果報告書 専門職教育者の IPE（異業種連携教育）基盤型研修プログラムの実践開発研究』（課題番号 26590191、研究代表者：渡邊洋子）（平成 26 年度～28 年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究））、2017 年 3 月、全 91 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 洋子 (WATANABE, Yoko)
京都大学・教育学研究科・准教授、

研究者番号：70222411

(2) 研究分担者

佐伯 知子 (SAEKI, Tomoko)
大阪総合保育大学・保育学科・准教授
研究者番号：90517210

(3) 研究分担者

角山 香織 (KADOYAMA, Kaori)
大阪薬科大学・薬学部・准教授
研究者番号：10571391

(4) 研究分担者

奥蘭 淳二 (OKUZONO, Junji)
海上保安大学校・専任講師
研究者番号：30725289

(5) 研究分担者

柴原 真知子 (SHIBAHARA, Machiko)
京都大学・医学研究科医学教育推進センター・特定助教
研究者番号：40625068

(6) 研究協力者・研究補助者

種村 文孝 (TANEMIRA, Fumitaka)
京都大学大学院教育学研究科・博士後期課程院生

以上